

縦断シリーズ⑦ 生瀬から仁川

第 199 回 武庫川エコハイク
2024.1.13 エコグループ・武庫川

武庫川 全長 65km、流域面積 500km²。丹波篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える 2 級河川である。「武庫川」の名は下流の右岸が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門(むこみなと)」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。本川の源流は丹波篠山市にある。丹波篠山市から三田盆地までは緩やかな傾斜であるが、道場を過ぎると武庫川渓谷の急流となる。武庫川下流の治水対策として武庫川渓谷に治水ダムが計画されたが、県は武庫川流域委員会を設置して2年半にわたり協議した結果、平成22年(2010)10月、20年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

JR生瀬駅 明治32年(1899)阪鶴鉄道(はんかくてつどう現 JR 福知山線)開通とともに「**有馬口駅**」が設置され、有馬温泉への玄関口となる。また蒸気機関車の給水、給炭場であった。後**生瀬駅**と改称された。**名物弁当「鮎寿し**」は生瀬にあった**淡路屋**が売出した。武庫川でとれた鮎を姿造りの押し寿司にし、魚の形にした折り詰めはなかなかの評判であった。駅前に淡路屋跡(現在老人保健施設が建っている所、ヤクルトの隣)。

生瀬宿 生瀬は有馬街道、篠山街道の分かれ道(追分)の宿場町として栄えた。今も妻入建築が残っている。浄橋寺の門前町でもあった。

浄橋寺(じょうきょうじ) 浄橋寺は鎌倉時代嘉禎4年(1238)善慧坊証空上人により創建された。国指定重要文化財、県・市指定文化財が多数あり。創建伝承によれば、証空上人が有馬温泉に向かう途中賊に会われ、上人は賊を諭されて急流で橋のない武庫川に橋を架け、利用する旅人から通行料を取って生計を立てるように言われた。賊たちは改心し、ここに橋を架けた。上人はこの橋を「浄橋」と名付けられたと言う。近く向いに、天照大御神を主祭神とする**生瀬皇太神社**がある。

神戸市水管橋 千苺水源地の原水を上ヶ原浄水場(西宮市)への導水管。JRが武庫川を跨ぐ橋脚元に石造りの橋脚上の鉄管が武庫川を跨ぐ第三水道橋(武田尾北側にあるのが第一水道橋)。**ウィルキンソンタンサン工場跡** 生瀬橋の武庫川右岸側にウィルキンソンタンサン工場があった(最初の工場は紅葉谷にあった明治23年(1890)。その後生瀬に移転した)。明治38年(1905)英国人ジョン・クリフォード・ウィルキンソン氏が創立し、この地の炭酸泉を瓶詰めにてウィルキンソンタンサンとして販売していた。昭和58年(1983)商標は朝日麦酒に売却移行した。平成2年(1990)炭酸水の湧出量が減少し工場閉鎖した。、平成7年(1995)建屋解体。現在高僧マンションが建設された。

惣川合流 大峰山東側を源流とする惣川が合流する。惣川浄水場は川下川貯水池を水源とする。**宝塚市水管橋と生瀬浄水場** 西宮市域にある生瀬水管橋。左岸側にある生瀬浄水場から右岸側宝塚市長寿が丘地区などへ上水を送る水管橋。管理道だが人が通行できる生活用道にもなる。生瀬浄水場は平成16年より浄水処理を停止して、浄水池及び送水ポンプのみ稼働している。

見返り岩・丁字が滝 武庫川右岸側にある巨岩。県道を隔てて西側に丁字の滝がある。

寿楼泉源 左岸側大林寺(栄町)から100m程上流左岸の護岸で見られる。泉源は昭和初期に掘削されたようで、宝塚温泉の源泉とは別源泉です。寿楼泉源は昭和31年(1956)に332m掘削し、30.5℃の含炭酸食塩泉が196L/分湧出していたそうです。現在涌出量は徐々に減っていき、1日数回湧出する「間欠泉源」です。対岸でも湧出している川底が茶色に変化している。

千歳橋跡 大正10年(1921)に「宝来橋」より600mほど上流に架けられた、「愛の松原」と「見返り岩」・「丁字ヶ滝」を結ぶ全長40m程の私設橋で、鉄筋コンクリート造の大正時代らしいモダンなデザインが印象に残る。昭和20年(1945)10月に上陸した台風の水害で流された。

武庫川改修 武庫川の両岸に堤防が出来たのは大正9年から昭和3年の改修工事による。

川面井堰 武庫川左岸地区への農業用水取水堰。かつて宝来橋すぐ上流にあったが、平成11年(1999)新観光ダム建設時に撤去され、ダム湖からの取水となっている。

宝塚旧温泉 足利時代(16世紀中頃)武庫川の河原に霊泉が湧くと記録が残る。明治19年(1886)武庫川右岸で冷泉が発見され、宝塚温泉が開業。翌年4軒となる。明治30年(1897)阪鶴鉄道が開業とともに入湯客が増える。明治44年(1911)旅旅館は50軒になる。

宝来橋 明治35年(1902)頃、初代宝来橋が架かる。その後何度かの洪水で流失、昭和30年(1955)4代目宝来橋は鉄筋コンクリートの橋になり初めて車の通行可能となる。現在のS字橋は平成6年(1994)完成。橋の左岸側にフランスの女性彫刻家マルタ・パンのデザインによる彫刻がある。

迎宝橋跡 明治43年(1910)2番目の橋として架橋される。現在の阪急今津線から上流へ150m、宝塚観光ダム付近に架かり、人しか通行出来ない木製の橋でした。西宮街道から分かれ、新温泉に渡る橋。昭和13年(1938)、昭和20年(1945)洪水のため流失。迎宝橋の親柱は右岸に残る。

宝塚新温泉・宝塚大劇場 明治43年(1910)箕面有馬電気鉄道(現阪急電鉄)が大阪-宝塚間と石橋-箕面の2路線が開業。翌年左岸に宝塚新温泉開業、さらに翌年明治45年歌劇場「パラダイス」が開業。現宝塚少女歌劇の始まり。大正13年(1924)宝塚大劇場完成、宝塚ルナパーク開業。

観光ダム 武庫川に水を貯め、観光客に潤いと安らぎを提供するために昭和39年(1964)完成。現在のものは低水敷幅で平成11年(1999)に完成したものだ。

阪急今津線武庫川橋梁 大正10年(1921)阪急電鉄の前身阪神急行電鉄の西宝線の鉄橋。平成5年(1993)宝塚南口駅宝塚駅間の高架化工事のため架け替えられた。

宝塚大橋 昭和8年(1933)完成。昭和53年(1978)架け替え。昭和初期、小浜村と良元村間を自動車で往来するには上流は生瀬橋、下流は甲武橋まで西宮市域を迂回であった。

亥の谷川 武庫川支流の2級河川。宝塚大橋下流右岸に合流。

支多々川 武庫川支流の2級河川、小逆瀬川とも呼ばれる。砂地で水流がしみこみ下流で現れ「滴る」からの川の名となったという。逆瀬川と同様暴れ川であったが六甲砂防の整備で現在に至る。

宝塚会館跡 支多々川の合流点上流側に東洋一といわれたダンスホールがあった。昭和5年(1930)に開場し戦前までダンスホールとして賑わった。その後ダンスホールは閉鎖され、昭和27年(1982)再開、同33年(1958)閉鎖された。

中洲 右岸側逆瀬川の合流点を造成し、昭和4年(1929)中洲楽園(温泉付き住宅地)が販売開始、翌年東洋一のダンスホール宝塚会館、中洲温泉が開業。現在は住宅地となる。

荒神川 武庫川支流2級河川左岸に合流、延長988m。中山寺奥の院付近から流れ渓谷を形成している。国道176号線一帯が溢水(いっすい)し浸水するので治水対策工事が行われ、同時に親水空間が設置された。

伊子志(いそし)の井堰 良元村の農業用水で、宝塚市上下水道局で取水していたが平成30年(2018)に廃止となる。現在のものは平成12年(2000)に整備したものだ。

逆瀬川合流 大平山南側を源流とし、六甲山系の土砂が流出したので明治30年(1897)から大規模な山腹砂防工事、下流については昭和3年(1928)から砂防河川工事がされた。

伊子志の渡し跡 中山寺から小浜宿を通り、西宮に至る街道にある武庫川の渡しで、18世紀の記録に残る。大正8年(1919)洪水で舟が流されるまで続いていた。

床止(帯工) 河床の流失防止、河道の安定のため設けられている。帯工は落差が無い。

宝塚新大橋・宝塚市庁舎 宝塚新大橋は昭和35年(1960)完成、宝塚市役所の横に架かる。宝塚市庁舎は 昭和 55 年(1980)竣工。設計は建築家の村野藤吾氏。

末広中央公園 平成 16 年(2004)4 月に防災公園として開園。非核平和都市宣言文石碑や被爆アオギリ二世記念樹・被爆クスノキ二世記念樹などがある。

昆陽(こや)井堰 伊丹市の農業用水、上水の取水堰。現在の物は平成13年整備したもの。

大堀川 武庫川支流の2級河川。チボリゴルフ練習場下流で武庫川に合流する。源流は売布きよしが丘の北側にあり、中流で小浜の台地を周回する。

武庫川新橋 平成6年(1994)完成。宝塚新大橋と甲武橋(国道 171 号線)との間が 4.3 kmあり、その中間に設けられた。

百間樋井堰 大市庄の灌漑用水として16世紀中頃に築造されたと言われる。仁川の下 100 間(約 180m)に当初は木製樋を埋めて送水していたが、大正9年81920)コンクリート製に変えられた。百間樋公園南側で吐きだされる。現在は南部の農業用水、上水に使用される。

六樋井堰 尼崎の農業用水取水堰、昭和3年(1928)もと野間井など6個の井堰を合併し六樋とした。武庫川から伏流水を取水している。

天王寺川合流 長尾山系を源流とする天王寺川が合流する。上流で天神川が合流する。

8号床止(落差工) 下流から8番目の落差工の床止。魚道が中央部にある。

川西川合流 伊子志井堰からの灌漑用水と逆瀬川上流からの良元用水が川西川に排水。

仁川合流 仁川は六甲山石の宝殿近くに源流を持ち、社家郷山から甲山の北を通り、仁川溪谷を抜けて武庫川に合流する。全長9. 9km。

田近野(たじかの) もと武庫川対岸の西昆陽(尼崎市)の一部であったが延宝8年(1680)の武庫川の氾濫により分離した。昭和44年(1969)武庫川河口の対岸の丸島(平左衛門新田)と交換され西宮市となった。西宮市田近野町、尼崎市平左衛門町となる。

百間樋公園 仁川右岸にある公園の地下を百間樋が通る。南側に放流口がある。

小仁川と弁天池 小仁川は宝塚ゴルフ場に源流を持ち、途中に弁天池がある。弁天池は仁川大池といわれた。小仁川は今は弁天池に注ぐが、昭和10年(1935)洪水により阪急鉄橋が倒壊したことから、小仁川を弁天池に導水して流下させるようになった。この時今の競馬場付近は土砂で埋まったという。今、小仁川の堤防から北を望むと理解できる。

阪神競馬場 明治40年(1907)開設の鳴尾競馬場が第2次大戦中に川西航空機に売却され、更に競馬の一時停止によって中断していた。戦後昭和24年(1949)に現在の地に新しく開設された。現在は日本中央競馬会が所有し中央競馬を開催している。平成7年(1995)阪神大震災で被災し、平成9年改修工事が完了し現在の姿になった。

川西飛行機 大正9年(1920)創設。日本の航空機メーカーであり、現在の**新明和工業**の前身である。水上偵察機、飛行艇、紫電改などの海軍用の航空機を製造した。

仁川 西宮夷神に山幸(やまさち)を奉ずるに贄部(にえぶ)が住んでいたことから贄川(にえかわ)が訛ったものか。天井川で大雨の時にしか流れないにじみ川からとかれている。六甲山頂近く石の宝殿の南側に源流を持ち、甲山の北側を通り、仁川溪谷を抜けて流れる。暴れ川仁川の河川改修が完成したのは大正10年(1921)。

阪急仁川駅 大正10年(1921)阪急西宝線(西宮北口-宝塚間)が開通、仁川駅が設置された。阪急神戸線(大阪-神戸)開通は前年の大正9年。